

統合分野

【科目】	在宅看護論総論	【単位数・時間】	1 単位 (30 時間)
【担当講師】	高野 千絵	【開講時期】	第 2 学期 【配当年次】 1 年
【所属・職位等】	専任教員	【実務経験】	看護師 8 年

【授業における到達目標】

1. 在宅看護の意義と必要性、対象の特性と地域を基盤にした看護の役割を理解する。
2. 地域における保健医療福祉活動と看護の役割について理解する。

【授業の概要】

在宅看護は在宅で生活するあらゆる発達段階及び健康レベルの人と家族を対象とし、在宅看護が提供される場も広がりを見せていることから、その目的と特徴、在宅看護に求められていることを考察しながら学習します。各看護学で学習したことをもとに疾病予防及び健康の保持・増進のための看護を学びます。療養の場を在宅に決定することの意義や対象の特性から看護の役割への理解を深めていきます。

【アクティブ・ラーニング】

地域包括ケアシステムの理解を進めるために、ジグソー学習を行います。

実在する地域に焦点を当て、地域包括ケアシステムの 5 つの視点を中心とした社会資源の把握を行い、事例を用いて、地域完結型の社会システムの在り方について考える機会とします。

グループワークで、調べ学習、情報提供を繰り返し行うことによって、能動的な学習、協調性を養い、地域の実情の理解を深めていきます。

【授業計画】

回数	内容 (方法)
第 1 回 第 2 回	在宅看護の目的と特徴 在宅看護が提供される場とその広がり 在宅看護の目ざすもの 在宅看護に求められていること 在宅看護における QOL
第 3 回	在宅看護における看護師の役割と機能 超高齢化社会の進展と地域連携システム 医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割 退院支援 退院調整 地域連携クリティカルパス
第 4 回 第 5 回	在宅看護の対象者 対象者の特徴 年齢からみた対象者の特徴 疾患からみた対象者の特徴 障害からみた対象者の特徴 在宅療養状態からみた対象者の特徴 訪問看護制度の経緯からみた対象者 地域で暮らす健康な人
第 6 回	在宅看護の制度 在宅看護の仕組み 訪問看護制度の創設と発展経緯 老人訪問看護制度 訪問看護制度 介護保険制度 後期高齢者医療制度
第 7 回	ケアマネジメントの概念と機能 ケアマネジメントの概念 ケアマネジメントの機能 介護保険制度のケアマネジメント サービス担当者会議
第 8 回 第 9 回	介護保険制度 介護保険の被保険者 介護サービス 介護予防サービス 地域保健 地域ケア会議 地域包括支援センター
第 10 回	訪問看護制度

回数	内容（方法）
	訪問看護の利用者 訪問看護ステーションに関する規程 訪問看護の内容 訪問看護の利用までの手順 訪問看護の提供とチームケア 訪問看護の費用と利用料 公費負担医療制度
第 11 回 第 12 回	在宅看護における看護師の倫理 在宅看護の対象者の権利 在宅看護における法律問題 基本的人権の保障 個人の尊厳 成年後見 虐待 個人情報等の情報の開示 インフォームドコンセントと自己決定権 個人情報の保護
第 13 回	入退院時における医療機関と訪問看護の連携 退院時における連携の重要性 入院時における連携の重要性 医師との連携
第 14 回 第 15 回	地域包括ケアシステム 在宅における連携の特徴 社会資源との連携 ネットワークづくり (地域の社会資源についての調べ学習、および、事例を用いて地域包括ケアシステムの 考察を行う)

#### 【試験・課題等の内容】

試験問題は、授業の内容の範囲から出題。  
レポート課題は、授業中に提示します。

#### 【評価方法】

試験の成績、レポート課題にて評価する。  
終了試験 90 点 + レポート課題 10 点

#### 【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)  
国民衛生の動向 (厚生労働統計協会) 国民の福祉と介護の動向 (厚生労働統計協会)

#### 【参考文献】

必要に応じて、文献・資料を紹介します。

#### 【授業外における学修方法及び時間】

シラバスを確認し、テキストの該当する範囲に目を通しておいてください。

在宅にかかわる法制度や社会資源は、関係法規・公衆衛生・社会福祉・老年看護学で履修する内容  
と関連付けて学習することができます。

皆さんの居住する地域のことや、社会の動向に日ごろから関心を寄せておきましょう。本授業で取  
り上げる語句は、昨今のニュースや新聞などでよく取り上げられるものを多く含みます。普段の生活の  
中で、これらに積極的に目を向けておくと、学習に役立ちます。

【科目】	在宅看護方法論 I	【単位数・時間】	2 単位 (30 時間)
【担当講師】	高野 千絵	【開講時期】	通年 【配当年次】 2 年
【所属・職位等】	専任教員	【実務経験】	看護師 8 年

【授業における到達目標】

1. 在宅看護の場の特徴をふまえて在宅看護の基本を理解し、日常生活技術及び看護過程の展開方法を理解する。
2. 社会資源の活用方法や関連職種との連携を理解する。

【授業の概要】

在宅看護におけるコミュニケーション技術や訪問看護師に求められる基本的な礼節も含めて訪問時の面接や指導技術について学びます。

在宅における家族の意味や家族機能変化をふまえた援助について学びます。

基礎看護学で学んだ基本的看護技術をもとに、在宅療養における日常生活援助を考える機会とします。家庭の場での応用や家族への指導、看護者としての倫理、社会資源の活用も含めて学習していきます。

各看護学で学習した知識・思考過程を応用し、在宅看護における看護過程を展開していきます。

【アクティブ・ラーニング】

看護過程の展開演習において、個人学習・グループワーク・発表を相互に行い、他者の意見を傾聴するとともに自身の考えを明確に伝え、反応に応じて評価を客観的に行う主体的な協同学習に取り組みます。

【授業計画】

回数	内容 (方法)
第 1 回	1. 在宅看護の基本 1) 訪問時の態度・心構え 2) 生活の場における看護 在宅看護を展開するための面接技術 訪問時のマナー・態度
第 2 回	2. 家族の看護 在宅看護の対象者としての家族 家族の機能 システム理論を用いた家族のとらえ方 家族アセスメント
第 3 回	3. 在宅看護における日常生活援助 療養者と家族の健康評価
第 4 回	1) 食事の援助 ・在宅での食事の特徴 ・食生活・嚥下のアセスメント ・食事指導
第 5 回	2) 排泄の援助 ・在宅での排泄の特徴 ・排尿・排便のアセスメント ・排泄に関わる環境と介護力のアセスメント ・排泄援助の工夫
第 6 回	3) 清潔・更衣の援助 ・在宅での清潔・更衣の援助の特徴 ・清潔・更衣のアセスメント ・清潔・更衣の援助の工夫

回数	内容（方法）
第7回	4) 移動・移乗の援助 ・在宅での移動・移乗の特徴 ・移動・移乗のアセスメント ・移動・移乗の援助
第8回 第9回	4. 在宅看護過程展開のポイント ・在宅看護過程の特徴 ・在宅看護の標準化に向けた取り組み
第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	5. 在宅看護過程の展開方法 ・在宅看護の情報収集に重要なこと ・ICF の概念 ・家族ニーズ ・在宅看護のアセスメントの視点 家族全体・住環境・社会資源・家族の介護力・経済力 目標・計画 実施と評価

#### 【試験・課題等の内容】

試験問題は、授業の内容の範囲から出題。

レポート課題は、授業中に提示します。

#### 【評価方法】

試験の成績、レポート課題にて評価する。

終了試験 50 点 + 看護過程レポート課題 50 点

#### 【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）

国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）

看護技術プラクティス第3版（学研メディカル秀潤社）

#### 【参考文献】

必要に応じて、文献・資料を紹介します。

#### 【授業外における学修方法及び時間】

シラバスを確認し、テキストの該当する範囲に目を通しておいってください。

学生の皆さん自身の生活や家族の生活の様子に今一度目を向け、家庭にあるものを日常生活援助技術で利用したり、工夫して活用したりすることができないか、日頃の周囲の環境や物品に関心を寄せておきましょう。

異世代とのコミュニケーションを意識して積極的に交流を図り、社会的な規範・マナーとは何か考えておくことも、大変役立ちます。

統合分野

<p>【科目】 在宅看護方法論Ⅱ 【単位数・時間】 1 単位 (30 時間)</p> <p>【担当講師】 高野 千絵<sup>1)</sup> 廣瀬 美奈子<sup>2)</sup> 鳥丸 章子<sup>3)</sup> 嶽元 とも子<sup>4)</sup></p> <p>【開講時期】 通年 【配当年次】 2 年</p> <p>【所属・職位等】 1) 専任教員 【実務経験】 看護師 8 年</p> <p>2) 看護師・助産師・保健師 株式会社ソートフル 社長</p> <p>3) 都城医療センター 地域医療連携部副部長</p> <p>4) 都城医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師</p>
--

【授業における到達目標】

1. 療養者及び家族の健康問題別の看護の方法を理解する

【授業の概要】

- 1) 事例を用いて、在宅における経過期別看護、症状別看護を学びます。
- 2) 訪問看護の活動の実際から、在宅における終末期看護について学びます。
- 3) 病院における地域連携室の機能、実際の活動から、病院から在宅へ移行する療養者の治療処置看護の実際を学びます。
- 4) 病院における退院指導・退院後訪問活動の実際から、在宅療養者が受ける感染予防、創処置、ストーマ管理について学びます。

【授業計画】

回数	内容 (方法)	担当者
第 1 回 第 2 回	1. 在宅における経過期別看護、症状別看護 慢性的な経過をたどる療養者と家族への在宅看護 難病や障害のある療養者への支援 ・リハビリテーション、自立支援、社会資源について	高野
第 3 回	小児の療養者に対する在宅看護 ・対象の特徴 退院計画 退院時カンファレンス 退院とのフォロー体制の説明と確認	高野
第 4 回	認知症のある療養者と家族への在宅看護 ・対象の特徴 ・家族や周囲との連携	高野
第 5 回	精神症状のある療養者の看護 ・対象の特徴 訪問看護導入 アセスメント 生活能力や病状の変化に応じた在宅ケアのポイント	高野
第 6 回 第 7 回	在宅で終末期を迎える療養者と家族の看護 ・症状コントロール 死の徴候の観察と評価 家族支援 医療機関・医師との 連携 自己決定への支援 グリーフケア	廣瀬
第 8 回	2. 在宅療養者の治療処置看護の実際 経管栄養法	鳥丸
第 9 回	中心静脈栄養法	鳥丸
第 10 回	酸素療法	鳥丸
第 11 回	気管カニューレ 人工呼吸療法	鳥丸
第 12 回	CAPD 持続皮下注法 緊急時の対応	鳥丸
第 13 回	日頃の安全対策の点検と指導 災害時の対応と訪問看護師の役割	鳥丸

回数	内容（方法）	担当者
第14回	感染の予防と対応 創処置・褥瘡処置	嶽元
第15回	ストーマ管理（人工膀胱・人工肛門） 間欠的自己導尿法・膀胱留置カテーテル	嶽元

#### 【試験・課題等の内容】

試験問題は、授業の内容の範囲から出題。

レポート課題は、授業中に提示します。

#### 【評価方法】

試験の成績、レポート課題にて評価する。

1. 在宅における経過期別看護、症状別看護 50点
2. 在宅療養者の治療処置看護の実際 50点

#### 【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 在宅看護論（医学書院）

国民衛生の動向（厚生労働統計協会） 国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）

看護技術プラクティス第3版（学研メディカル秀潤社）

#### 【参考文献】

必要に応じて、文献・資料を紹介します。

#### 【授業外における学修方法及び時間】

シラバスを確認し、テキストの該当する範囲に目を通しておいください。

本科目は、統合分野の為、あらゆる分野との関連があります。特に看護技術や臨床看護総論、災害看護の基礎知識をもとに在宅での留意点などを学んでいくため、押さえておきましょう。

## 統合分野

【科目】医療安全 I	【単位数・時間】 1 単位 (15 時間)	
【担当講師】 後藤祥子 <sup>1)</sup> 、北野喜恵 <sup>2)</sup>	【開講時期】 第 2 学期	【配当年次】 1 年
【所属・職位等】 副看護部長 <sup>1)</sup> 、医療安全管理部副部長 <sup>2)</sup>		

### 【授業における到達目標】

医療安全の基本的な考え方を理解し、安全な看護を提供するために必要な感性を身につける。

### 【授業の概要】

医療事故が起こりやすい特性について、人間の3つの行動モデルの視点から学ぶ。

また、医療安全対策の基本的な考え方や安全対策として組織と個人の立場や危機の種類からみた対策として事例を取り上げ学習していく。

特に、療養上の世話をを行う上で起こりやすい事故について考え、事故を予防するためのリスク感性を磨く。

### 【アクティブ・ラーニング】

- ・事例を用いたグループワークを行い、全体で意見交換を行う。

### 【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第1回	医療安全と医療の質保証	後藤
第2回	医療事故の考え方	北野
第3回	診療の補助の事故防止	北野
第4回	療養上の世話の事故防止	北野
第5回	医療安全とコミュニケーション	北野
第6回	看護学生の実習と安全	後藤
第7回	医療安全と医療の質保証	後藤
第8回	終了試験	北野・後藤

**【試験・課題等の内容】**

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

**【評価方法】**

終了試験 100%

**【テキスト】**

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2]医療安全 (医学書院)

**【参考文献】**

医療安全ワークブック 第4版 (医学書院)

**【授業外における学修方法及び時間】**

毎回1時間程度の事前学習を要する。



## 統合分野

【科目】医療安全Ⅱ 【単位数・時間】 1 単位（15 時間）  
【担当講師】 後藤祥子<sup>1)</sup>、北野喜恵<sup>2)</sup> 【開講時期】 通年 【配当年次】 3 年  
【所属・職位等】 1) 副看護部長 2) 医療安全管理部副部長、看護師長（医療安全）

### 【授業における到達目標】

看護の場面で遭遇する機会が多い事故の発生要因を理解し、防止対策を考えることができる。

### 【授業の概要】

医療事故や医療事故訴訟に関する事例を活用しながら授業を行う。医療安全対策としての組織的な取り組みについて学ぶ。また、医療事故の構造の総合的な理解と事故予防のためのメタ認知能力を養うために、医療事件事例の分析やリフレクションを行う。

### 【アクティブ・ラーニング】

・事例を用いたグループワークを行い、全体で意見交換を行う。

### 【授業計画】

回数	内容・方法	備考
第 1 回	医療事故後の対応、看護学生の実習と安全組織的な安全管理体制への取り組みと展望	後藤
第 2 回	診療の補助業務における安全対策	北野
第 3 回	療養上の世話における安全対策 1	北野
第 4 回	療養上の世話における安全対策 2	北野
第 5 回	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	北野
第 6 回	医療安全とコミュニケーション	北野
第 7 回	事例分析（RCA 分析）	北野
第 8 回	終了試験	後藤 北野

### 【試験・課題等の内容】

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

### 【評価方法】

終了試験 100%

**【テキスト】**

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2]医療安全（医学書院）

**【参考文献】**

医療安全ワークブック 第4版（医学書院）

**【授業外における学修方法及び時間】**

毎回1時間程度の事前学習を要する。

## 統合分野

【科目】看護マネジメント論	【単位数・時間】1単位(30時間)	
【担当講師】山中真弓 <sup>1)</sup> 、赤星誠美 <sup>2)</sup>	【開講時期】第1学期	【配当年次】3年
【所属・職位等】1) 教育主事 2) 看護部長		
【実務経験】1)について看護師8年、厚生労働技官3年		

### 【授業における到達目標】

看護におけるマネジメントの様々な考え方を知り、看護マネジメントの自らの考えを述べることができる。

### 【授業の概要】

患者家族に看護を提供するためには、組織的にマネジメントする必要があり、その視点を学ぶ。また、これまで学んだ知識を統合し、看護の質の保証について実践することができる。

### 【アクティブ・ラーニング】

課題レポートや事例を用いた検討会を行う。

### 【授業計画】

回数	内容・方法		担当
第1回	マネジメントに必要な理論	マネジメントとは何か マネジメントの考え方の変遷 古典的組織論、人間関係論、近代組織論、動機づけ理論	山中真弓
第2回		目標による管理、システム論	山中真弓
第3回		リーダーシップの各理論	山中真弓
第4回		看護管理とは何か	山中真弓
第5回	看護サービスのマネジメント	看護サービスとは 組織目的達成のマネジメント	赤星誠美
第6回		看護サービス提供のしくみ 人材のマネジメント	赤星誠美
第7回		施設・設備環境のマネジメント 物品のマネジメント	赤星誠美
第8回		情報のマネジメント 看護サービスの質の保証	赤星誠美
第9回	看護ケアのマネジメント	看護ケア提供の仕組みと機能	山中真弓
第10回		患者の権利の尊重	山中真弓

第11回	ト	チーム医療と他職種との連携	山中真弓
第12回		看護管理に必要な法制度	山中真弓
第13回	看護職のキャリアマネジメント	看護職のキャリア形成 看護専門職としての成長	山中真弓
第14回	マネジメント	事例を用いた看護マネジメント(演習)	山中真弓
第15回	トの実際	事例を用いた看護マネジメント(演習)	山中真弓

#### 【試験・課題等の内容】

課題レポートは、自己の看護マネジメントに関する考えを明らかにするためとし、授業で提示する。

事例を用いた看護マネジメントに関する演習を行う。

試験は授業全般である。

#### 【評価方法】

終了試験 80 %

課題レポート 20 %

#### 【テキスト】

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院

#### 【参考文献】

看護管理学習テキスト 看護マネジメント論 日本看護協会

#### 【授業外における学修方法及び時間】

本科目は15時間の自己学習を要する。次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。

## 統合分野

【科目】災害看護	【単位数・時間】1単位(15時間)
【担当講師】西 裕也 <sup>1)</sup> 、小原まゆみ <sup>2)</sup>	【演習担当講師】都城市消防局
【開講時期】第1学期	【配当年次】3年
【所属・職位等】1) 院内非常勤講師、手術室副看護師長	2) 専任教員(助産師20年)

### 【授業における到達目標】

1. 災害や被災した人、地域、社会の特徴を理解し災害直後から支援できる看護の基礎知識が理解できる。
2. 救急時の応急処置の方法を学ぶ。

### 【授業の概要】

災害看護の概念と構造、災害看護の実際を学ぶ授業である。さらに救急法演習を通して救急法の実際を学ぶ。

### 【アクティブ・ラーニング】

事例を用いたグループワークを行い、全体発表・検討会を行う。

### 【授業計画】

回数	内容(方法)	備考
1回目	災害の定義、災害の種類と疾病構造(講義)	小原担当
2回目	災害医療、災害看護(講義)	小原担当
3回目	災害看護の特徴と看護活動、災害とこころのケア(講義、グループディスカッション)	小原担当
4回目	災害サイクルからみた必要な医療・災害各期の看護支援(講義)	西 担当
5回目	被災者特性に応じた災害看護の展開(講義)	西 担当
6回目	被災者特性に応じた災害看護の展開(講義、グループディスカッション)	西 担当
7回目	救急法演習 AED、心肺蘇生法(ロールプレイ)	都城市消防局
8回目	救急法演習 AED、心肺蘇生法(ロールプレイ)	都城市消防局

### 【試験・課題等の内容】

学生の理解度を確認するため、適宜小テストを行う。

終了試験は授業で教授した内容から出題する。

グループディスカッションの際には事前および事後にレポート課題を提示する。

### 【評価方法】

終了試験 100%

### 【テキスト】

系統看護学講座 看護の統合と実践(3) 災害看護学・国際看護学(医学書院)

### 【参考文献】

東日本大震災、熊本地震のドキュメント

### 【授業外における学修方法及び時間】

1. 次回の授業に対する事前の課題を提示するため、毎回1時間程度の事前学習を要する。
2. 災害看護に関するナーシングチャンネルを事前に視聴する。(60分)

## 統合分野

【科目】	統合看護技術	【単位数・時間】	1 単位 (30 時間)
【担当講師】	小倉裕香 <sup>1)</sup> 小川真梨子 <sup>2)</sup> 内藤亜紀 <sup>3)</sup> 奥野夏美 <sup>4)</sup> 新川琴巳 <sup>5)</sup> 遠矢 悠 <sup>6)</sup> 山中真弓 <sup>7)</sup>		
【開講時期】	通年	【配当年次】	3 年
【所属・職位・実務経験等】	1) 専任教員 (看護師 6 年) 2) ~6) 看護師 7) 看護師 8 年、厚生労働技官 3 年		

### 【授業における到達目標】

1. 多重課題、複数の対象への看護  
対象の状態に応じて、看護技術を組み合わせ、応用して提供するための思考と実践が行える。
2. 課題研究演習  
科学的根拠に基づいて、自己の看護実践を検証する。  
実践した看護を振り返り、自己の課題を明確にすることができる

### 【授業の概要】

1. 看護師に必要な看護実践能力を明確にし、看護の場面や事例を用いて倫理的な看護の実践について学習します。患者の理解から看護の判断、実践、評価という一連の演習を行います。
2. 臨地実習で受け持った患者の事例を取り上げ、実施した看護について、文献を活用しながら事例研究を行います。

### 【アクティブ・ラーニング】

臨床に近い状況の設定、模擬患者及び PC タブレット端末による撮影を用いたシミュレーション教育を導入し、臨床実践能力を養います。

### 【授業計画】

回数	内容 (方法)	担当者
第 1 回	1. 多重課題、複数の対象への看護 1) 倫理的な看護の実践 (看護の場面を通じた倫理的な看護の実践の考察を個人・グループワークで行う)	小倉
第 2 回 第 3 回	2) 医療現場におけるコミュニケーション (1) アサーティブなコミュニケーション ・アサーティブ行動 ・アサーティブ行動の実践のステップ ・ケースから学ぶコミュニケーション (ロールプレイ・グループワークおよび意見交換)	小倉
第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回	3) 複数の対象への個別性をふまえたアセスメント (1) 対象の状態や看護上の問題を考慮した援助の必要性の判断 (2) 対象の状態に応じた看護計画立案 看護技術を統合・応用・創造する意義や方法の検討 4) 多重課題への対応 (1) 複数の対象者への看護の優先順位や判断 (2) 複数の対象者への看護を実践するための行動計画立案 ・患者の状態と看護の優先順位を考慮した看護計画の計画 ・多重課題時の判断と患者への対応	小倉

回数	内容（方法）	担当者
第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回	5) 多重課題、複数の対象の状態に応じた看護技術 演習 (1) 複数受け持ち患者の看護を実践するための学習 (個人・グループワーク学習) (2) 一日の行動計画立案（個人・グループワーク学習） (3) 一日の行動計画に基づいた看護の実施（シミュレーション学習）	小倉 小川 内藤 奥野 新川 遠矢
第13回	2. 課題研究演習 事例研究に行うにあたってのガイダンス	山中
第14回 第15回	研究発表	山中

#### 【試験・課題等の内容】

試験問題は、授業の内容の範囲から出題。

レポート課題は、授業中に提示します。

#### 【評価方法】

試験の成績、レポート課題にて評価する。

1. 多重課題、複数の対象への看護 60点
2. 課題研究演習 40点

#### 【テキスト】

ひとりで学べる看護研究（照林社）

#### 【参考文献】

必要に応じて、文献・資料を紹介します。

#### 【授業外における学修方法及び時間】

本科目は、統合分野であり、これまでの知識・技術を活用して学びを深めます。

授業時間以外にも、学習時間を確保し、主体的かつ計画的に学んでいきましょう。

## 統合分野

【科目】在宅看護論実習	【単位数・時間】2単位（90時間）	
【担当講師】高野 千絵	【開講時期】第1. 2学期	【配当年次】3年
【所属・職位等】専任教員	【実務経験】看護師8年	

### 【授業における到達目標】

1. 市町村における地域保健活動の実際を理解し、看護の役割と機能及び連携を学ぶ。
2. 居宅介護支援事業所における在宅生活を支える支援の実際を理解し、専門職の役割と機能及び連携を学ぶ。
3. 訪問看護ステーションの役割、機能を理解し在宅療養者とその家族がもつ生活上及び医療上の問題を知り看護者の役割を学ぶ。また在宅療養者とその家族に応じた援助の実際を理解する。

### 【授業の概要】

在宅で療養している人と家族が持つ健康及び生活上の課題を理解し、その人に応じた看護について学ぶ

### 【実習期間】

2019年8月27日～2019年10月25日のうち連続する12日間

### 【実習施設】

市町村

都城市役所

三股町健康管理センター

居宅支援事業所

ケアプランサービス ゆう

星空の都 居宅介護支援センターみまた

高城園居宅介護支援事業所

霧島荘居宅介護総合支援事業所

指定居宅介護支援事業所 夢路

訪問看護ステーション

都城市郡医師会立訪問看護ステーション

くぼはら訪問看護ステーション

訪問看護ステーションことぶき

三股町訪問看護ステーションなごみ

訪問看護ステーション優癒

リハケアステーション都城

訪問看護ステーションほほえみの園

訪問看護ステーション光

### 【授業計画】

詳細は、在宅看護論実習要項参照

### 【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。(配点：100点)

### 【授業外における学修方法及び時間】

詳細は、在宅看護論実習要項参照



【科目】看護総合実習

【単位数・時間】2単位(90時間)

【開講時期】2学期

【配当年次】3年

【担当講師】小倉 裕香

【所属・職位等】専任教員

【実務経験】看護師6年

【授業における到達目標】

1. 複数の受け持ち患者の状態や周囲の状況を判断し、その状況に応じて必要な看護が実践できる。
2. 一勤務帯の看護師の役割について理解できる。
3. 他職種と協働し、医療チームにおける看護のマネジメントについて理解できる。
4. 自己の看護観を深め、専門職業人としての自己の課題を明らかにできる。

【授業の概要】

チームの一員として、看護実践に必要なマネジメントを理解し、対象を取り巻く人々との調整や連携を学ぶ。

【実習期間】

2019年11月5日～2019年11月22日のうち連続する12日間

【実習施設】

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 1病棟～5病棟

【授業計画】

詳細は、看護総合実習要項参照

【評価方法】

実習終了後、評価基準をもとに評価を行う。(配点：100点)

【授業外における学修方法及び時間】

授業ノートの整理と見直しを行い、実習期間中は学習したノートを持参する。学習内容に不足がある場合は、追加学習を行う。

1. 実習病棟に特徴的な疾患について（病態・治療処置・看護目標や看護の方法）
2. 看護マネジメント論で学習した病棟での看護マネジメント
3. 医療安全Ⅰ・Ⅱで学習した医療安全対策と管理
4. 統合看護技術